

ViALOOP6010

ISDNルータ

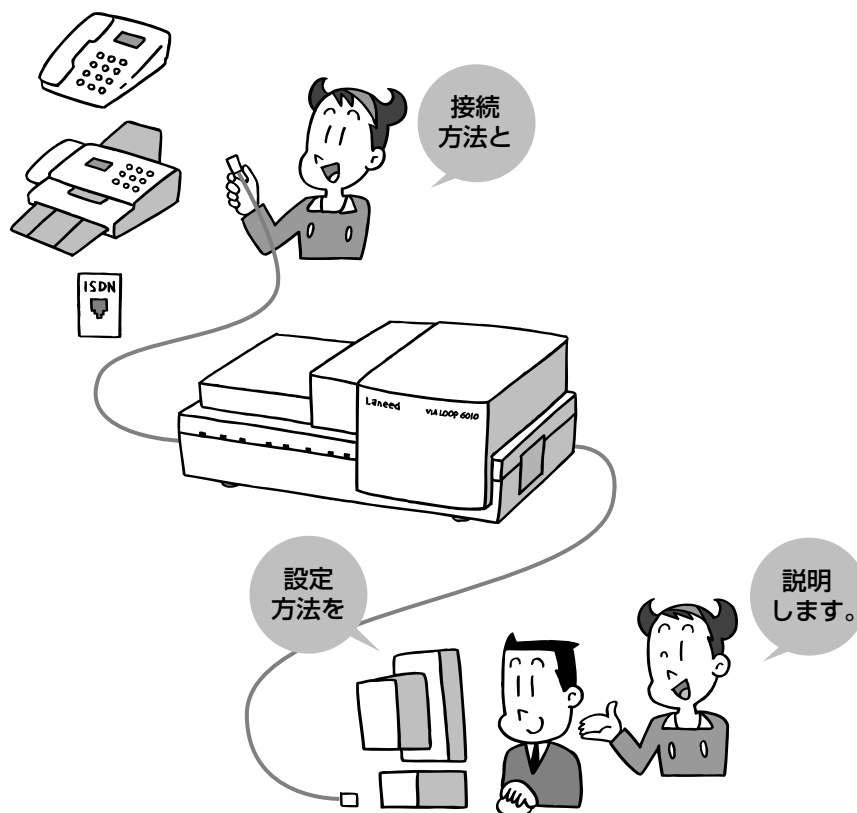
LD-VIA6010

DSU内蔵

10BASE T×1

スタートガイド

はじめにこちらをお読みください

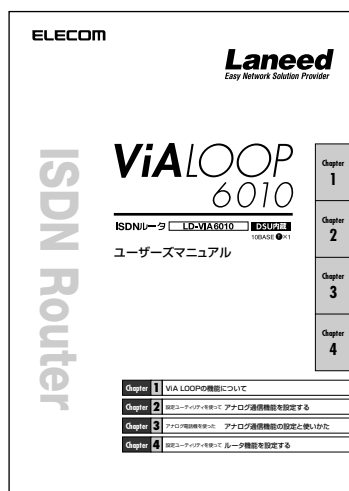


ViA LOOP 6010
START GUIDE

もくじ

安全にお使いいただくために	2
導入の手順フロー	3
1. ViA LOOPを使う前に	4
2. パッケージの内容を確認しましょう	7
3. 準備をしましょう	8
4. 各部の名称とはたらき	10
5. つないでみましょう	13
・ 外部からの回線とアナログ通信機器をつなぐ	13
・ コンピュータとつなぐ	15
6. ネットワークの設定を確認しましょう	16
・ Windows98/95でのネットワーク設定	16
・ WindowsNT4.0でのネットワーク設定	20
7. ルータの基本設定をしましょう	22
・ 設定ユーティリティをインストールする	22
・ ダイアルアップ接続の基本設定をする	26
・ 設定ファイルを転送する	31
・ 常時接続回線、専用線の基本設定をする	33
8. インターネットに接続しましょう	36
・ まだなら、まずブラウザをインストールする	36
・ インターネットに接続する	40
9. ViA LOOPの機能をもっと使うには	41
・ アナログ通信機能を利用する	41
・ ルータ機能を利用する	42
10. うまく動作しないときは	43
・ こんなときは	43
・ 補足1 原因がわからないとき	47
・ 補足2 コンフィグレーションパスワード について	48
・ 補足3 工場出荷時の状態に設定を戻す	49
11. 製品の保証とユーザ登録	50
・ 製品の保証とサービス	50
・ ユーザ登録について	50
12. サポートサービスについて	51

●ユーザーズマニュアルについて



「スタートガイド」を読んで、基本的な設定が終われば、必要に応じて「ユーザーズマニュアル」をお読みください。ユーザーズマニュアルには、「スタートガイド」では説明していないアナログ通信機能とルータ機能のいろいろな機能が説明されています。

ViA LOOP6010

ISDNルータ

LD-VIA6010

DSU内蔵

10BASE T×1

Start Guide

スタートガイド

■ ■ はじめに ■ ■

このたびは、弊社製ISDNルータ"ViA LOOP6010"をご購入いただき、誠にありがとうございます。 「スタートガイド」はパッケージの内容の確認から基本的な接続をおこなってインターネットに接続するまでの導入段階について説明しています。また、本製品を導入するにあたって、すべてのお客様に必ず読んでいただきたい注意事項を説明しています。まず、このスタートガイドをお読みになって基本的な導入をおこなってください。別冊の「ユーザーズマニュアル」では、基本設定を終わったあとのアナログ通信機能の詳細な設定やルータ機能の設定を説明しています。必要に応じてお読みください。

ご注意

- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートは行っておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

	警 告	この表示の注意事項を守らないと、火災、感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
	注 意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警 告



小さな子供のいるそばで本製品の設置作業を行わないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。

けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。



本製品の設置作業は、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。



本製品の分解、改造、修理をご自分で行わないでください。

火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外になります。



本製品から煙やへんな臭いがしたときは、直ちにACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



本製品に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちにACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



本製品を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。

火災や感電、故障の原因になります。

注 意

本製品の設置作業は説明書を読みながら、慎重に行ってください。

間違った設置方法は故障やけがの原因になります。

導入の手順フロー

はじめに、確認してください

ISDN回線または常時接続サービス、高速デジタル専用線のいずれかの契約と工事は終わっていますか。(※ISDN回線および高速デジタル専用線でインターネットをご利用になる場合は、さらにインターネット接続プロバイダとの契約が必要です。)

1 パッケージの内容を確認します。

☛7ページ

・付属品に足りないものがないかチェックしてください。



2 ユーザー登録ハガキを記入します。

☛50ページ

・必要事項をご記入の上、郵便ポストに投函してください。



3 本製品を接続します。

☛13ページ

・本製品とコンピュータ、アナログ電話機※と接続します。

※常時接続回線、高速デジタル専用線の場合は、アナログ通信機能は利用できません。



4 コンピュータ側のネットワーク機能の設定内容を確認します。

☛16ページ

・Windows98/95での設定方法。

☛20ページ

・WindowsNT4.0での設定方法。



5 設定ユーティリティをインストールし、必要事項を設定します。

☛インストールは22ページ

・ISDN回線でダイヤルアップ接続するための設定方法。

☛26ページ

・常時接続サービス高速デジタル専用線での設定方法。

☛33ページ

・保存した設定ファイルをViA LOOPに転送します。

☛31ページ



6 ダイヤルアップまたは常時接続サービスでインターネットに接続します。

☛36ページ

・ブラウザのインストールと設定方法も説明しています。

※高速デジタル専用線の場合は、システム構成に合わせて設定をおこなってください。

ルータ機能の詳細設定は「ユーザズマニュアル」をお読みください。

ここでは、ViA LOOPを使う前に知っておきたいこととして、ISDN回線と専用線の違い、ルータを利用することのメリットなどについて説明しています。

ISDN回線について

ルータをダイヤルアップで接続する場合は、NTTとのISDN回線の契約が必要になります。ISDNは一般回線の1回線分のケーブルで、2回線を利用することができます。このため、通話料金は一般回線と同じですが、基本料金は一般回線の2倍弱の料金が設定されています。伝送容量は、1回線あたり最大64kbpsで、2回線を同時に使用すれば、最大128kbps(2B接続)の通信速度を得ることができます。また、ISDN回線は一般回線の2回線分利用できるのも、インターネットに接続中でも、もう1回線を使って電話機での通話することも可能です。さらに、本製品のようにアナログポートが2ポートあれば、電話機とFAXを各ポートにつないで、NTTとダイヤルイン契約をすることで電話番号を2つ取得し、電話機専用の番号とFAX専用の番号を持つことができます。電話番号を電話機とFAXで分けることができ、インターネットにも高速でアクセスできるわけですから、個人や数人のいわゆるSOHOと呼ばれる事務所には便利な契約回線といえるでしょう。さらに、ISDNにはダイヤルインをはじめ次のような多くの付加サービスがあります。(詳しくはユーザーズマニュアルの8ページをお読みください。)

- ・ダイヤルイン番号
- ・サブアドレス
- ・3者通話
- ・コールウェーティング
- ・着信転送
- ・ナンバーディスプレイ
- ・なりわけ など

ISDN回線では、インターネットに接続する場合、ダイヤルアップ接続になります。この場合、プロバイダと呼ばれるインターネット接続業者とインターネットにアクセスするための契約が別に必要になります。このため、ダイヤルアップ接続でかかる費用は、ISDN基本料金、通話料、プロバイダ利用料を合計したものになります。この料金の合計が3万5千円を超えるようであれば、このあと説明するNTTのOCNエコノミーなどの常時接続サービスを契約することも考えるべきでしょう。この3万5千円という金額は、1分10円の接続サービスをおこなっているプロバイダを使って、平日の昼間・同一市内にあるプロバイダのアクセスポイントに月30時間アクセスする料金より安い金額になります。つまり昼間に毎日2時間程度アクセスするなら、常時接続サービスを利用したほうが安いということになります。



ISDN回線を使用して
ダイヤルアップするのが
おすすめるのかた

- 通常の電話機などのアナログ通信機能と併用したい。
- テレホーダイサービスの時間帯以外にあまりインターネットを利用しない。また、プロバイダは固定料金制である。
- 1か月間にインターネットにアクセスする時間はそれほどでもない。(じゅうぶんに利用して電話料金とプロバイダ利用で3万円かからない。)
- 拠点間でデータをやり取りすることがあるため、あくまでもダイヤルアップルータとしての機能を利用する。

常時接続サービス

常時接続サービスとは、128kbpsの通信速度を持つ常時接続回線とインターネットへのアクセスをセットにしたサービスで、NTTのOCNエコノミーがよく知られています。NTT以外にも日本テレCOMのODNエコノミーⅡ、第二電電のDIONなどのサービスが常時接続サービスをおこなっています。24時間つながっぱしでインターネットを利用しても、利用料金は約3万3千円から3万8千円ですから、ダイヤルアップ接続でかかる利用料金が3万5千円程度であれば、常時接続サービスを選択するほうがおすすめでしょう。常時接続サービスのメリットはなんといっても、24時間いつでも、好きな時間だけ利用しても利用料金が固定なので、思う存分インターネットを楽しめるということです。ダイヤルアップのように回線の切り忘れで思わぬ課金を請求されたりすることはありません。また、ダイヤルアップだと利用料のことを考えて、消極的になってしまうインターネットへのアクセスも、常時接続になれば課金のことを気にせずに利用することができます。また、常時接続だとメールもリアルタイムで受信することができます。ビジネスでインターネットを利用する場合は、単に現在の利用料と比べるだけでなく、常時接続ならどれだけ利用するかも考えて、常時接続サービスの導入を検討すべきでしょう。常時接続サービスを利用すると、独自ドメインを取得し、自社サーバを立ち上げて、独自ドメインによる自社のWebを運営することもできます。メールサーバを用意すれば、独自ドメイン名のメールアドレスを用意することもできます。

ただし、常時接続サービスを利用するにあたって注意すべきことがあります。常時接続サービスにおける通信速度の128kbpsは、常時その通信速度を保証しているものではなく、最大の通信速度であるということです。例えばOCNエコノミーの場合、利用者とNTTの電話局の間は128kbpsの常時接続回線で結ばれていますが、電話局からインターネットのバックボーンへは最大24ユーザーが128kbps1本の回線にまとめられてつながっています。つまり、複数のユーザーが同時に利用しているときは、128kbpsの速度を求めることはできないということになります。これは、OCNエコノミーだけでなく常時接続サービスはみな同じような設定になっています。このような方法で回線を提供することで、従来の高速デジタル専用線よりも大幅に安い利用料金が設定されているわけです。



常時接続サービスを利用するのが
おすすめた

- インターネットだけの電話料金、プロバイダ利用料で3万5千円程度かかっている。
- 3万5千円もかかっているが、料金が怖くてインターネットを十分に活用できないでいる。
- ルータの導入を機に、各社員のマシンからインターネットにアクセスできるようにと考えている。
- 自社サーバによるWebやメールサーバを運営したいと考えている。

高速デジタル専用線

高速デジタル専用線は、特定の拠点間を専用線で結ぶというものです。もちろん拠点間は24時間常時接続された状態になります。OCNエコノミーなどの常時接続サービスとは異なり、契約した伝送容量が常に保証されています。例えば、128kbpsで拠点Aと拠点Bの間を契約した場合、この拠点間の常に最大128kbpsの通信速度で利用することができます。ただし、距離に応じた高額な利用料金が必要になります。また、高速デジタル専用線を使ってインターネットへアクセスする場合は、さらに、プロバイダと接続契約をおこなう必要があります。つまり、プロバイダと専用線のための接続契約をした上で、プロバイダのアクセスポイント～利用者間を結ぶ高速デジタル専用線の利用料も別途払う必要があるわけです。ViA LOOPでは、NTTのHSDやDAと呼ばれる128kbpsまたは64kbpsの高速デジタル専用線を利用することができます。



高速デジタル専用線を利用するのが
おススメのかた

- 常時接続サービスよりも高速でインターネットにアクセスしたい。
- ユーザーが頻繁にアクセスするようなWebを運営したい。
- 拠点間で大量のデータを頻繁にやり取りしたい。

ViA LOOPを使ったルータ機能のメリット

ISDNでダイヤルアップ接続する場合のメリットとして、アナログポートやISDNのいろいろなサービスが使えることを説明しましたが、これらはルータではなく、TA(ターミナルアダプタ)でも利用できる機能です。では、ルータを利用することのメリットはなんでしょう。それは、なんといっても、ダイヤルアップでも複数のコンピュータからインターネットへ同時にアクセスできるということでしょう。ダイヤルアップの場合、接続するたびに、プロバイダから動的なIPアドレスをひとつだけ与えられます。本来なら、IPアドレスがひとつしかなければ、インターネットに接続できるコンピュータは1台しかありません。しかし、ルータには、NAT(Network Address Translator)と呼ばれる機能を持ったものがあり、ネットワーク上の複数のプライベートアドレスをインターネットのグローバルアドレスに置き換えて通信することができます。たとえこれが常時接続サービスであっても、プロバイダから与えられるIPアドレスは8または16個ですから、LAN上の十数台のコンピュータをインターネットに接続するには、NAT機能は絶対に必要な機能といえるでしょう。ViA LOOPではNAT機能を強化したNAT+機能を採用しています。また、ViA LOOPのようにDHCPサーバ機能を持っていると、LAN上のコンピュータにプライベートアドレスを自動的に割り当てることができるので、わざわざ個々のコンピュータにIPアドレスを設定する必要がなくネットワークの管理がとても楽になります。このほかにも、ViA LOOPを使えば多彩なルータ機能を利用できます。ViA LOOPで利用できるルータ機能については、ユーザーズマニュアルの15ページをお読みください。



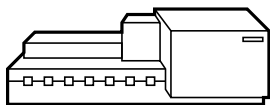
ISDNルータ
"ViA LOOP"の
メリットは

- グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換することで、複数のコンピュータからの同時アクセスが可能。
- ダイヤルアップの場合、アナログポートも利用できる。
- 自動的にインターネットにつながる自動接続機能(自動発呼)により、ダイヤルアップを意識することがない。
- PIAFSを使って外出時もホストコンピュータとデータのやり取りが可能で、モバイルコンピューティングに最適である。
- 不要なアクセスをシャットアウトするフィルタリング機能を持っている。

本製品のパッケージには、次のようなものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一、不足品や破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店か弊社ラニード・サポートセンター(☎P51)までご連絡ください。

●ViA LOOP本体 1台

・縦置き用のゴム足が別に付属します。



●RJ11 (ISDN) ケーブル(4極2芯)

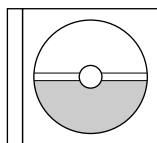


●RJ45イーサネットケーブル(4極4芯)



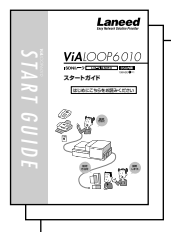
●設定ユーティリティCD-ROM

・設定ユーティリティ以外にHTMLで作成されたコマンドリファレンスが付属します。
お手持ちのブラウザでご覧ください。



●マニュアル

・スタートガイド
・ユーザーズマニュアル
・アナログ通信機能クイックリファレンス



●ユーザ登録カード／保証書（登録方法☎P50）

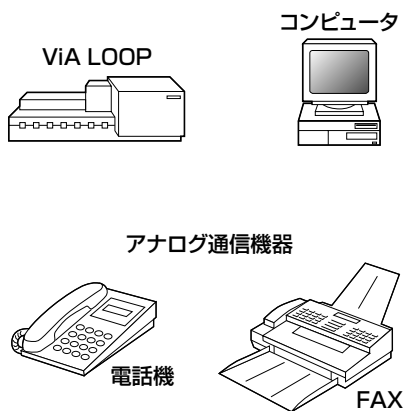
※このほかにも、マニュアル類やプロバイダの申込み用紙などが付属します。

本製品を利用するには、本製品とコンピュータを用意する以外に準備しなければならないことがあります。ここでは、必要な機器と手続きについて説明しています。

本製品を使用するために必要な手続き

スタートガイドでは、次のような構成で接続する例を説明しています。コンピュータが複数台ある環境でお使いになる場合でも、まずコンピュータを1台だけ使って接続を確認してから、ネットワークにつなぐことをおすすめします。

●スタートガイドで使用する構成



- ・コンピュータ本体
- ・本製品
- ・アナログ電話機(常時接続サービスおよび高速デジタル専用線では使用できません)
- ・ISDN回線



高速デジタル専用線での設定

スタートガイドの常時接続サービスの設定を参考に、基本設定をおこなったあと、ユーザズマニュアルの「ルータのシステム構成例」を参考に拡張機能の設定をおこなってください。

本製品以外に必要な機器

本製品の機能を利用するには、コンピュータ以外に次のような機器が必要です。

●イーサネットボード

コンピュータと本製品はイーサネットで接続します。10BASE-Tに対応したイーサネットボードを用意して、コンピュータ本体に取り付け、設定しておいてください。なお、コンピュータを2台以上接続する場合は、HUBをご用意ください。

●アナログ通信機器

本製品にはアナログポートが2ポートあります。ISDN回線と接続する場合は、このポートに接続するアナログ通信機器を用意してください。アナログポートで使用できる機器には、アナログ電話機、FAX、モデムなどがあります。



本製品をOCNエコノミーなどの常時接続サービスおよび高速デジタル専用線と接続するときは、アナログ通信機能はご利用になれません。

本製品を使用するために必要な手続き

本製品を使用するには、次のような手続きが完了している必要があります。

●ISDN回線の契約(ダイヤルアップサービスを利用する場合)

本製品をインターネットにダイヤルアップで接続する場合は、NTTのINS64ネットのようなISDN回線との接続を申し込む必要があります。ISDN回線の申し込みはNTTとの契約になり、工事が必要です。ISDN回線の申し込みおよび工事依頼はお近くのNTTの窓口へご相談ください。

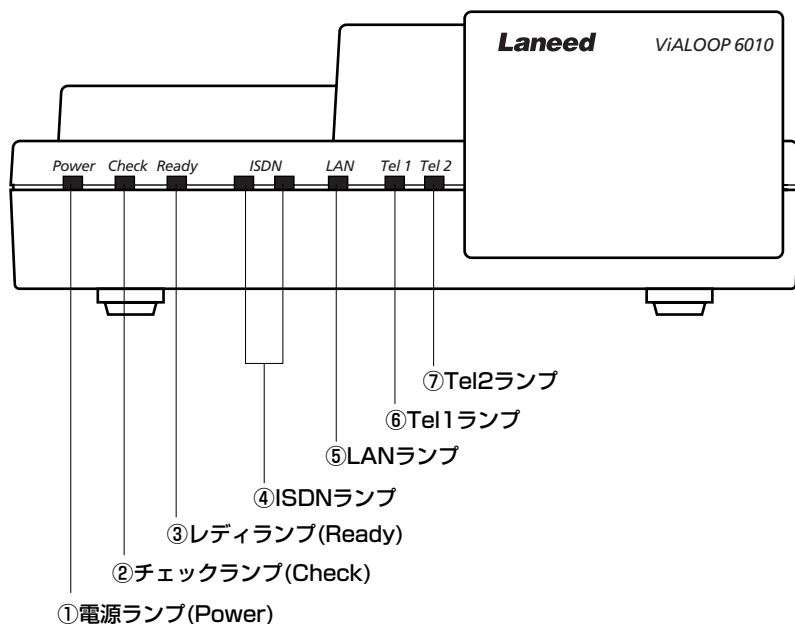
●OCNエコノミーなどの常時接続回線または高速デジタル専用線の契約

本製品は、OCNエコノミーなど常時接続サービスおよび高速デジタル専用線にも対応しています。常時接続サービスを運営している通信業者または高速デジタル専用線を運営している通信業者との契約と工事が必要です。詳しくは、通信業者にご相談ください。

●インターネットプロバイダとの契約

ISDNでダイヤルアップによりインターネットに接続する場合は、ダイヤルアップに対応したプロバイダと契約する必要があります。また、高速デジタル専用線でインターネットをご利用の場合は、専用線接続に対応したプロバイダとの契約が必要です。なお、本製品には主要プロバイダの申し込み用紙が付属しています。これらのプロバイダはダイヤルアップサービスの個人契約については、オンラインで申し込むことができます。まだ申し込みをされていない場合は、本製品をセットアップしたあとで、添付の「主要プロバイダ・オンラインサインアップ説明書」をお読みください。

■正面



①	電源ランプ(Power)	本製品の電源プラグをACコンセントに差し込んで、通電中の状態になると点灯します。
②	チェックランプ (check)	状況により次のように点灯、点滅します。 ・電源を入れて自己診断中は点滅します。 ・電源を入れて自己診断をおこなった結果、エラーが発生した場合に点灯します。 ・使用中に何らかのトラブルが発生したときに点滅します。
③	レディランプ (Ready)	状況により次のように点灯、点滅します。 ・電源を入れて自己診断中は点滅します。電源を入れてから1分以上点滅している場合は故障です。 ・使用中は常に点灯しています。
④	ISDNランプ	ISDNまたはHSD(高速デジタル回線)接続し、通信可能状態では点灯しています。通信がおこなわれると点滅します。
⑤	LANランプ	ネットワークに正常に接続している場合に点灯します。通信がおこなわれると点滅します。
⑥	Tel 1ポート	電話の受話器を上げた状態またはオンフックの状態では点灯します。着信転送機能を設定しているときは点滅します。それ以外のときは消灯しています。
⑦	Tel2ポート	

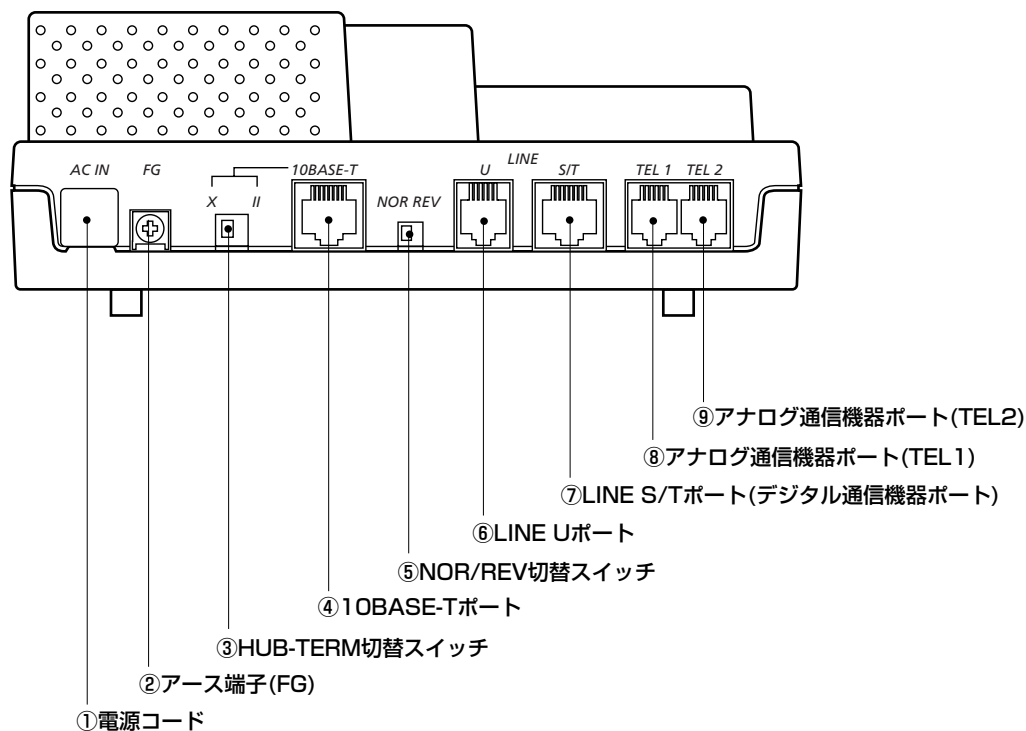
※設定スイッチ4をONにしてリセットした場合は、すべてのランプが一時的に点灯します。



ランプの点灯状態の組み合わせから状態を知ることができます。

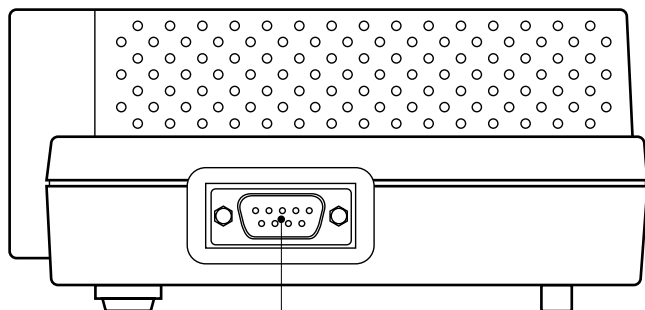
ランプの点灯状態の組み合わせをチェックすることで、本製品と回線の状態がわかります。組み合わせと状態についてはユーザーズマニュアルの「(●P113)」を参照してください。

■背 面

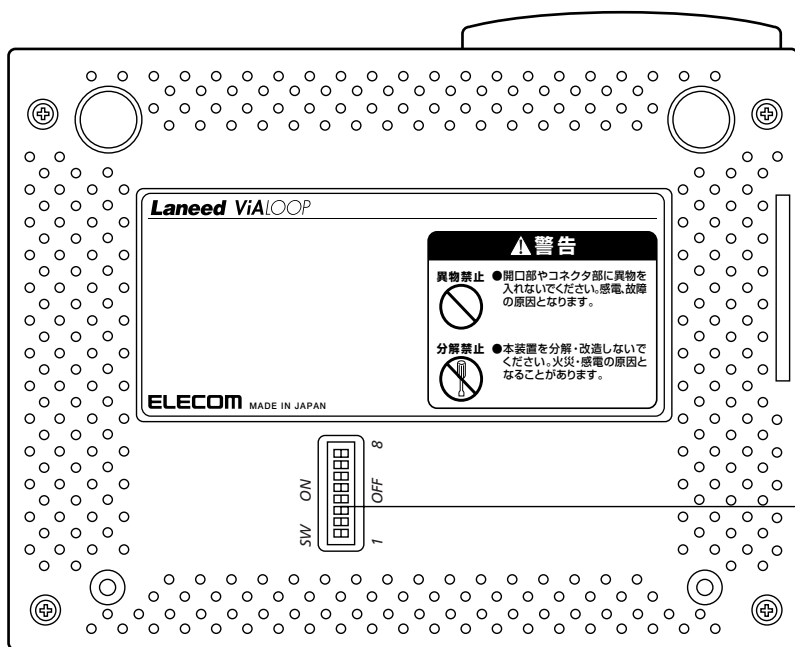


①	電源コード	一般のAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込みます。
②	アース端子(FG)	アースに接続します。
③	HUB-TERM切替スイッチ	本製品をコンピュータと接続するときはX側に、HUBと接続するときはII側にします。
④	10BASE-Tポート	10BASE-Tケーブルを使って、コンピュータまたはHUBと接続します。
⑤	NOR/REV切替スイッチ	ISDN回線のU点の極性を反転させるためのスイッチです。
⑥	LINE Uポート	ISDN回線に接続します。
⑦	LINE S/Tポート (デジタル通信機器ポート)	デジタル電話機、G4ファックスなどデジタル通信機器を接続します。
⑧	アナログ通信機器ポート(TEL1)	アナログ電話機、ファックス、モデムなどを接続します。
⑨	アナログ通信機器ポート(TEL2)	

■側面および底面



①コンソールポート



②設定スイッチ

①	コンソールポート	本製品の設定ファイルをコンピュータとやり取りするためのポートです。
②	設定スイッチ	各種設定を行います。設定の方法については、ユーザーズマニュアルの「2. 設定スイッチについて (P112)」をお読みください。また、本製品の設定内容を工場出荷時に戻したいときは、このマニュアルの「工場出荷時の状態に設定を戻す (P49)」をお読みください。

本製品と必要な機器をつないでみましょう。ISDN回線の場合は、はじめにアナログ機器を取り付けて、正常に動作するか確認してみましょう。その後でコンピュータと接続します。

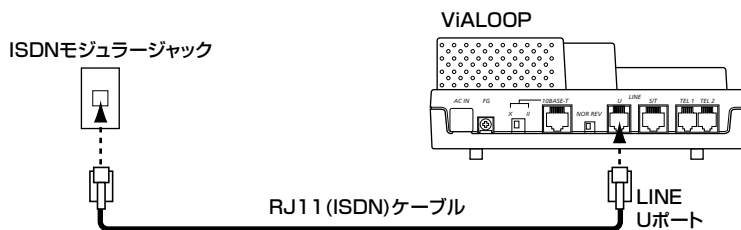
ISDN回線または常時接続回線、高速デジタル専用線の工事は終わっていますか。本製品を使用するには、すでにいずれかの工事が終了している必要があります。一般回線には接続できません。

外部からの回線とアナログ通信機器をつなぐ

ISDN回線または常時接続回線、高速デジタル専用線と接続します。ISDN回線の場合はアナログ通信機器の接続をおこないます。

1 接続図を参考に外部からの回線と本製品を接続します。

■本製品⇔ISDNモジュージャック(または常時接続回線、高速デジタル専用線)との接続



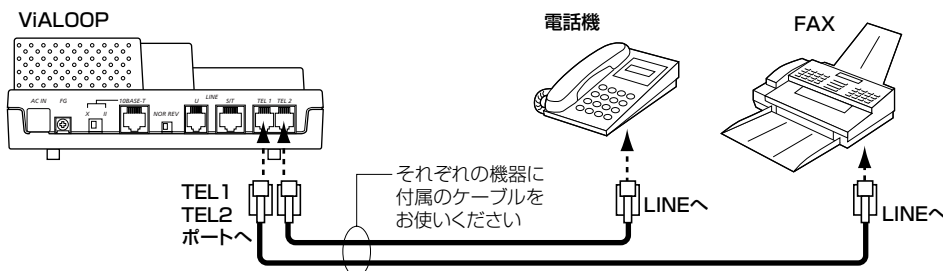
・本製品に付属のRJ11 (ISDN)ケーブルを使ってISDNモジュージャック(または常時接続回線、高速デジタル専用線)と本製品を接続します。本製品側は背面の"LINE U"ポートに接続します。

2 ISDN回線の場合は本製品とアナログ通信機器を接続します。

常時接続回線、高速デジタル専用線では、手順 **3** へ進みます。

■本製品⇔アナログ通信機器

本製品の背面にある"TEL1"ポート、"TEL2"ポートとアナログ電話機やFAXをケーブルで接続します。



常時接続回線、高速デジタル専用線(HSD)では、アナログ通信機器は使用できません。

3 接続が終わったら、本製品の電源プラグをACコンセントに接続します。

4 電源が入ると自己診断テストが始まります。

- ・テスト中は、Powerランプが点灯し、CheckランプとReadyランプが点滅します。
- ・テストが終わると、Checkランプは消灯し、Readyランプが点灯状態になります。

5 PowerランプとReadyランプが点灯状態になれば、本製品が使用可能になります。

ISDN回線の場合は、アナログ電話機の動作確認をおこないます。

- ・アナログ電話機から天気予報(177)などに電話をかけ、正常に通話できるかを確認します。

■ 通話できないときは

いったん、本製品のACプラグを抜き、本製品の背面にある"NOR/REV"切替スイッチをREV側に切り替えます。次に、再度ACプラグをACコンセントに差し込み、手順 **4** **5** の操作を試してください。



●アナログ通信機器を使う場合は、本製品の電源は必ずONにしておいてください。

コンピュータを使用しないときも、本製品の電源は常にONにしておいてください。本製品の電源がONになっていないと、アナログ電話機などが使用できません。

●アナログ電話機がつかないときは、次のことをチェックしてください。

- ・ ISDN回線と正しく接続されていますか(ISDNのモジュラー⇄本製品のLINE Uポート)
- ・ 電話用のケーブルは接続されていますか(本製品のTEL1またはTEL2ポート⇄アナログ電話機のLINE入力)
- ・ 電話機の電源は入っていますか
- ・ 本製品のTEL1/TEL2ポートに接続していますか
- ・ LINE UポートとTEL1/TEL2ポートを差し間違えていませんか

コンピュータとつなぐ

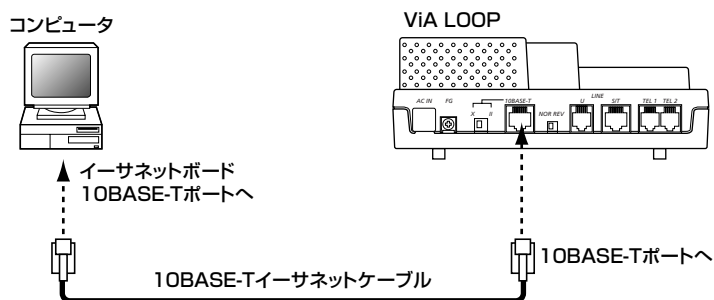
イーサネット経由でコンピュータと本製品をつなぎます。複数台のコンピュータを接続する場合でも、まずは1台だけ接続して正常に動作するかを確認してから、2台目以降を接続してください。

イーサネットボードの取り付けは済んでいますか

本製品を使用するには、コンピュータにイーサネットボードが装着されている必要があります。また、取り付けしていない場合は、10BASE-Tに対応したイーサネットボードをコンピュータに取り付け、ドライバをインストールして、正常に認識できるように設定しておいてください。

コンピュータと接続しましょう

本製品とコンピュータのイーサネットボードを10BASE-Tのイーサネットケーブルで接続します。このとき、本製品の背面にある"HUB-TERM"切替スイッチは"X"側にしてください。



本製品をネットワーク上で使用するのに必要な設定があります。ここでは、ダイヤルアップのために必要な設定の確認方法と、常時接続サービスおよび高速デジタル専用線との接続のために必要な設定の確認方法を説明しています。画面例はWindows98で説明していますが、Windows95でも同じです。WindowsNT4.0については、20ページ「WindowsNT4.0でのネットワーク設定」をお読みください。

Windows98/95でのネットワーク設定

画面例はWindows98ですが、Windows95でも手順は同じです。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]で、コントロールパネルを表示します。

2 [コントロールパネル]にある[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



・〈ネットワーク〉画面が表示されます。

3 [現在のネットワークコンポーネント(構成)]に、次の設定があるかを確認します。

- コンピュータに取り付けたイーサネットボードが存在しますか
- TCP/IPプロトコルが存在しますか



イーサネットボード

TCP/IPプロトコル

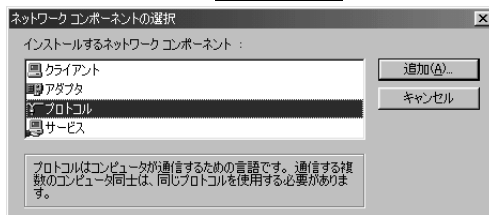
どちらも存在するとき ➡ 次ページ手順 4 へ進みます。
いずれかが存在しないとき ➡ このあとの説明を読んで設定してください。

■コンピュータに取り付けたイーサネットボードが存在しないとき
正常にインストールされていません。イーサネットボードのマニュアルを読んで正しく設定してください。

■TCP/IPが存在しないとき

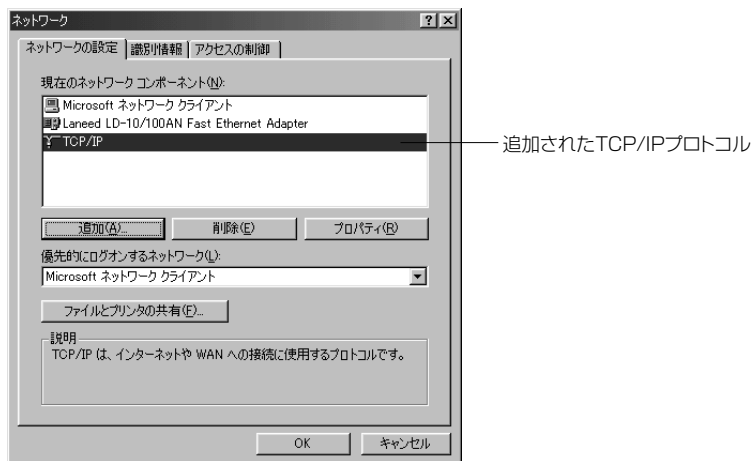
①〈ネットワーク〉画面で、**追加(A)...**をクリックします。〈ネットワークコンポーネントの選択〉画面が表示されます。Windows95では、〈ネットワーク構成ファイルの追加〉画面が表示されます。

②[プロトコル]を選択し、**追加(A)...**をクリックします。〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。



③[製造元]で[Microsoft]を選択し、[ネットワークプロトコル]で[TCP/IP]を選択して、**OK**をクリックします。

④〈ネットワーク〉画面の[現在のネットワーク構成]にTCP/IPが追加されます。

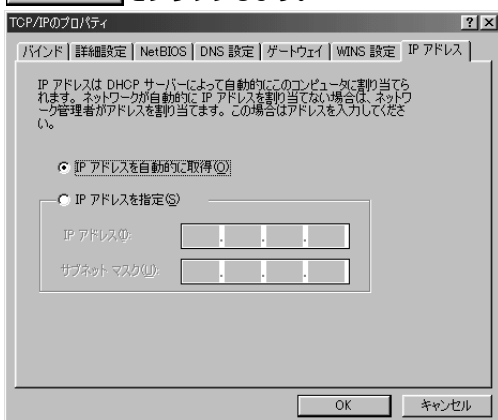


- 4** <ネットワーク> 画面の[現在のネットワークコンポーネント(構成)]で「TCP/IP(プロトコル)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。



- ・ <TCP/IPのプロパティ> 画面が表示されます。

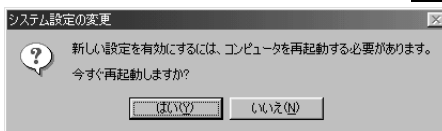
- 5** 【IPアドレス】タブが表示されていることを確認します。[IPアドレスを自動的に取得]をオン(有効)にして、[OK]をクリックします。



- ・ <ネットワーク> 画面に戻ります。

6 <ネットワーク> 画面で **OK** をクリックします。

- ・ 設定を変更した場合は、再起動を促す画面が表示されます。
- ・ 確認だけで変更していない場合は、画面を閉じます。

7 再起動のメッセージが表示されたときは、**はい(Y)** をクリックして、システムを再起動します。

これで、ネットワークの設定は完了です。

WindowsNT4.0でのネットワーク設定

WindowsNT4.0でのネットワーク設定の確認方法を説明します。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]で〈コントロールパネル〉を開きます。

2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
・〈ネットワーク〉画面が表示されます。

3 [プロトコル] タブを選択します。



4 [ネットワークプロトコル]に「TCP/IPプロトコル」が存在することを確認します。

➡ TCP/IPプロトコルがなければ

- ① [追加(A)...] をクリックします。〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。
- ② 「TCP/IPプロトコル」を選択し、[OK] をクリックします。
- ③ [ネットワークプロトコル]に「TCP/IPプロトコル」が追加されます。手順 **5** へ進んでください。

5 TCP/IPプロトコルを選択し、[プロパティ(P)...] をクリックします。



6 [DHCPサーバからIPアドレスを取得する]がオン(有効)になっていることを確認します。

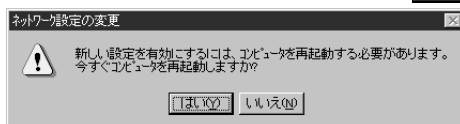
・ オフの状態のときは、オンに変更します。

7 <ネットワーク> 画面で、内容を変更した場合は、**閉じる** を、確認しただけの場合は、**OK** をクリックします。

◆変更した場合の<ネットワーク>画面



・ 画面が閉じます。

8 再起動のメッセージが表示されたときは、**はい** をクリックして、システムを再起動します。

これで、ネットワークの設定は完了です。

本製品に付属の設定ユーティリティを使って、インターネットなどに接続するのに必要なルータの基本設定をおこないます。

設定ユーティリティをインストールする

設定ユーティリティをコンピュータにインストールすると、本製品の各種設定をWindowsの画面上からおこなうことができます。ここでは、設定ユーティリティのインストール方法について説明します。

コンピュータの電源をオンにし、Windowsのシステムを起動しておきます。

・アプリケーションソフトなど不要なプログラムは安全のために終了しておいてください。

1 本製品に付属の「設定ユーティリティ」のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。

2 [マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]を開きます。

・CD-ROMの内容が表示されます。

3 "Utility"フォルダを開きます。

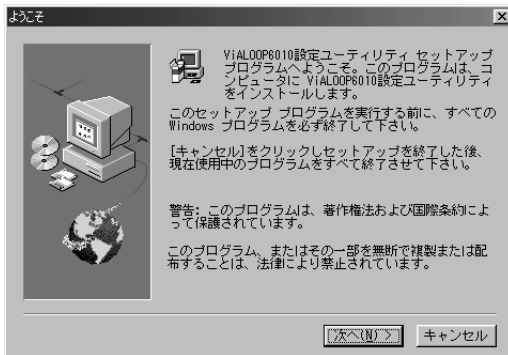


・Utilityフォルダの内容が表示されます。

4 "setup.exe"をダブルクリックします。



・セットアッププログラムが起動します。

5 **次へ(N) >** をクリックします。

- ・〈ユーザーの情報〉画面が表示されます。

6 ユーザー情報を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・[名前]だけでなく[会社名]にも必ず何か文字を入力してください。
- ・〈インストール先の選択〉画面が表示されます。

7 インストール先のディレクトリを指定します。

- ・インストール先のディレクトリが決まれば、**次へ(N) >** をクリックします。
- ・〈プログラム フォルダの選択〉画面が表示されます。

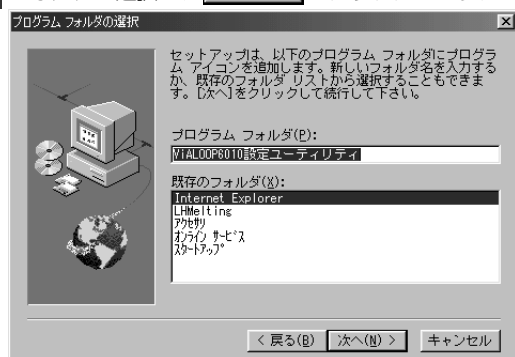
■ ディレクトリを変更したいときは

デフォルト以外のディレクトリへインストールしたい場合は、**参照(R)...** をクリックします。〈ディレクトリの選択〉画面が表示されますので、インストールしたいディレクトリを選択してください。



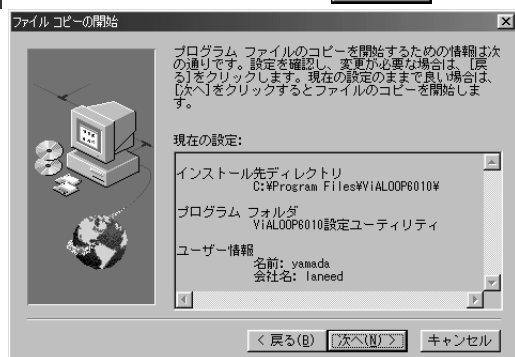
- ・ 選択が終われば、**OK** をクリックします。

8 フォルダを選択し、**次へ(N) >** をクリックします。

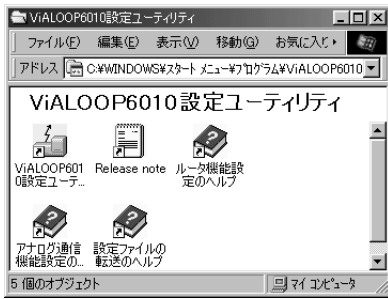


- ・ デフォルトは[ViAL00P6010設定ユーティリティ]です。新しい名称を入力したり、既存のフォルダ内にインストールすることも可能です。
- ・ 〈ファイルのコピー開始〉画面が表示されます。

9 設定内容を確認し、よろしければ**次へ(N) >** をクリックします。



- ・ インストールが始まります。

10 インストールが終わると、ViALoopP6010のフォルダがデスクトップに表示されます。

- ・〈セットアップの完了〉画面が表示されます。

11 **終了** をクリックします。

- ・これで設定ユーティリティのセットアップは完了です。

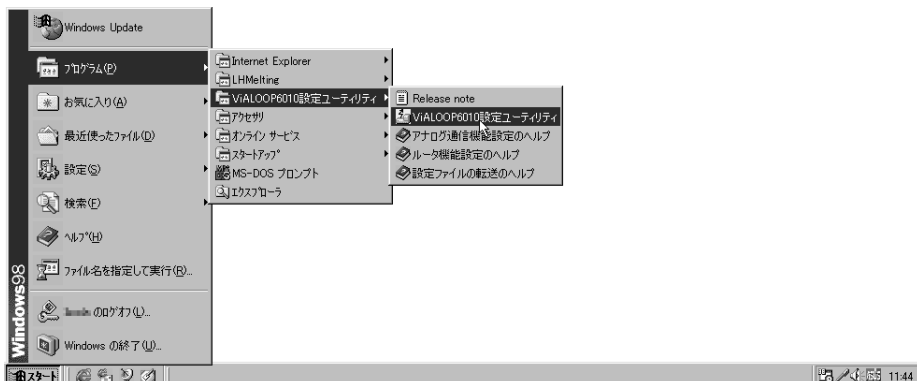
このあとは、本製品をお使いになる環境に合わせて基本設定をおこなってください。

- ダイヤルアップ接続を利用する場合 ➡ P26 「ダイヤルアップ接続の基本設定をする」
- 常時接続回線、高速デジタル専用線の場合 ➡ P33 「常時接続回線、専用線の基本設定をする」

ダイヤルアップ接続の基本設定をする

ダイヤルアップ接続するための基本機能を設定します。常時接続回線、高速デジタル専用線を使った基本機能の設定については、33ページ「常時接続回線、専用線の基本設定をする」をお読みください。

- 1** [スタート]→[プログラム]→[ViA LOOP6010設定ユーティリティ]で[ViA LOOP6010設定ユーティリティ]を選択します。



- ・〈ViA LOOP設定ユーティリティ〉が起動します。

- 2** [ルータ機能の設定]がオン(有効)になっていることを確認します。次にルータ機能の設定にある[新規作成]がオン(有効)になっていることを確認します。

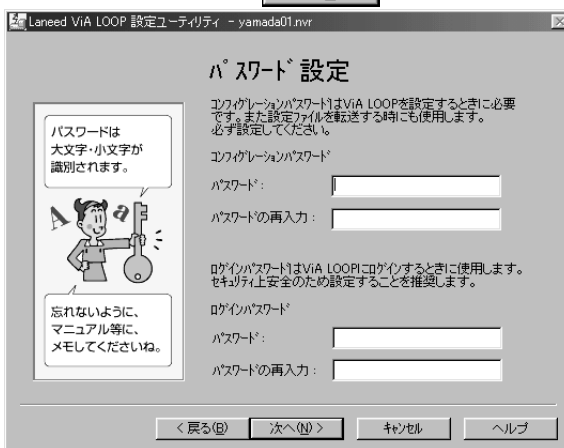


●2回目以降、保存した設定ファイルの内容を変更する場合は

- ①「既にある設定ファイルの再設定」をオンにし、ファイル名を入力して **次へ(N)>** をクリックします。 **参照(O)...** をクリックして保存したファイルを選択することもできます。
- ②選択した設定ファイルに対して設定したコンフィグレーションパスワード(●P48)を入力し、 **次へ(N)>** をクリックします。
- ③〈メイン設定メニュー〉画面が表示されます。[基本設定]をクリックします。
- ④〈接続回線の選択〉画面が表示されます。28ページ手順 **5** へ進んでください。

3 設定ファイル名を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・デフォルト(初期値)では、「新しいファイル.nvr」というファイル名になっています。
- ・拡張子を「nvr」として、任意のファイル名を付けることができます。
- ・〈パスワード設定〉画面が表示されます。

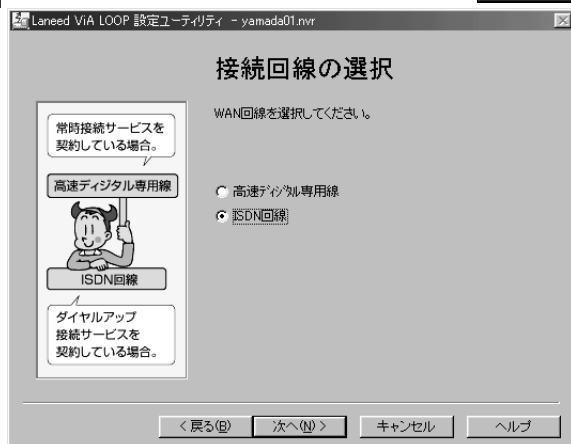
4 パスワードを設定します。コンフィグレーションパスワードは必ず設定しなければなりません。パスワードを設定したら、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・[パスワード]を入力し、同じ文字を[パスワードの再入力]に入力します。
- ・パスワードは忘れないように、他人に見られないところにメモするなどしてください。
- ・**次へ(N) >** をクリックすると〈接続回線の選択〉画面が表示されます。

◆各項目の内容

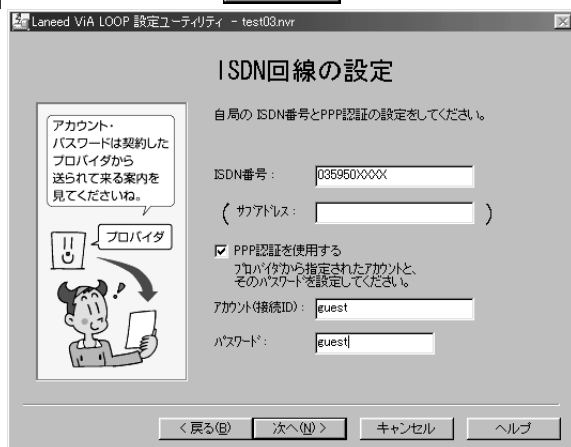
コンフィグレーションパスワード	VIA LOOPの設定をおこなうのに必要なパスワードです。このパスワードは設定ファイルごとに与えられます。そのため、設定ファイルごとの固有のパスワードになります。設定ファイルを変更する場合と、設定ファイルを転送する場合に必要なパスワードです。設定ファイルごとに異なるパスワードを設定する場合は、パスワードを忘れないように注意してください。なお、異なる設定ファイルに同じパスワードを使用することは可能です。(●P48)
ログインパスワード	VIA LOOPにログインするために必要なパスワードです。コマンドによる設定に必要です。ログインしないのであれば、設定の必要はありません。

- 5 「ISDN回線」が選択されていることを確認して、**次へ(N) >** をクリックします。



- ・〈ISDN回線の設定〉画面が表示されます。

- 6 必要な項目を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。



- ・〈接続相手の設定〉画面が表示されます。

◆項目の内容

ISDN番号	お客様が契約されたISDN回線の電話番号を市外局番から入力します。 また、"()" "および"- "は使用しないでください。
サブアドレス	サブアドレスの指定があれば入力します。通常は、空白のままでけっこうです。
PPP認証を使用する	契約したプロバイダから指定されたアカウントとパスワードがあれば、チェックボックスをオンにします。 通常、プロバイダと接続するときは、PPP認証を使用します。
アカウント(接続ID)	契約したプロバイダから指定されたアカウント(接続ID)を入力します。
パスワード	契約したプロバイダから指定されたパスワードを入力します。

7 プロバイダの名称や接続先を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

・〈LANインタフェースの設定〉画面が表示されます。

◆項目の内容

接続相手の名前	接続相手の名前を任意につけることができます。お客様がわかりやすい名前を入力してください。
ISDN番号	契約したプロバイダのISDN回線用アクセスポイント番号を入力します。
サブアドレス	サブアドレスの指定があれば入力します。通常は、空白のままでけっこうです。
バルク転送をする	ここでは、バルク転送をしないのでオフのままにします。

**Tips****バルク転送とは**

ISDN回線は一般回線の2回線分の容量があります。通常はこのうちの1回線(1チャンネル)を使ってプロバイダと接続します。これに対して、2回線(2チャンネル)使うことで2倍の容量で送受信することをバルク転送といいます。バルク転送では、2回線分を使用するので、通話料金も2倍になります。この設定は、ルータ機能の応用設定で、どんなときにバルク転送をおこなうかなど、細かな設定ができますので、通常はそちらで設定してください。詳しくはユーザーズマニュアルの83ページをお読みください。

8 指定されたIPアドレス、サブネットマスクパターンがある場合は、その数値を入力します。

通常はそのまま **次へ(N) >** をクリックします。

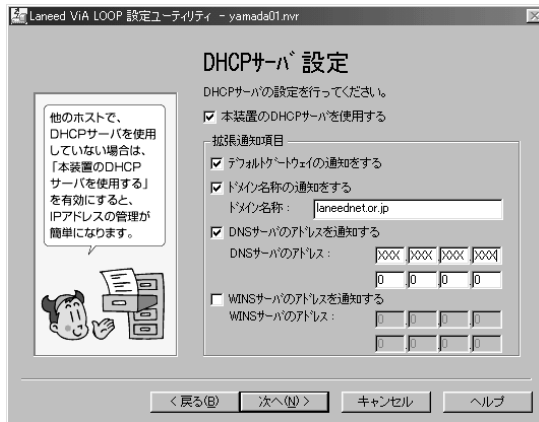
・〈DHCPサーバ設定〉画面が表示されます。

**Tips**

ViA LOOP 6010のデフォルトIPアドレスは「192.168.1.1」で設定されています。このIPアドレスは、お客様のプライベートアドレスとして使用することができます。

7. ルータの基本設定をしましょう

9 必要事項を入力し、**次へ(N) >**をクリックします。

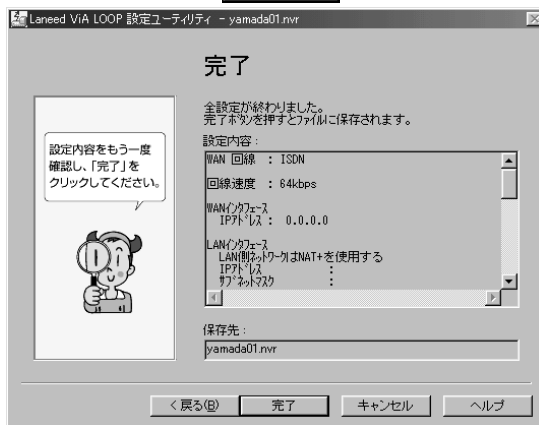


- ・〈完了〉画面が表示されます。

◆項目の内容

本装置のDHCPサーバを使用する	本製品のDHCPサーバを使用します。通常はオンのまま変更しないでください。
デフォルトゲートウェイの通知をする	この項目をオンにするとコンピュータごとにデフォルトゲートウェイを設定する必要がなくなります。
ドメイン名称の通知をする	プロバイダから指定がある場合は必ず入力します。
DNSサーバのアドレスを通知する	プロバイダから指定されたドメインネームサーバのアドレスを入力します。
WINSサーバのアドレスを通知する	WINSサーバのアドレスを入力します。わからなければ、入力する必要はありません。

10 設定内容を確認して、**完了**をクリックします。



11 設定内容をファイルに保存するか確認のメッセージが表示されます。**はい(Y)**をクリックします。



- ・〈メイン設定メニュー〉画面が表示されます。

このあと、保存した設定ファイルを本製品の本体に転送する作業が必要です。次ページの「設定ファイルを転送する」をお読みください。

設定ファイルを転送する

保存した設定内容を有効にするために、設定ファイルを本製品の本体へ転送します。ここでは10BASE-Tでの転送方法を説明します。コンソールポートを使ってRS-232Cで転送する場合は、ユーザーズマニュアルの44ページ「RS-232C転送の操作手順」をお読みください。

- 1 〈メイン設定メニュー〉画面で **戻る(B)** をクリックします。



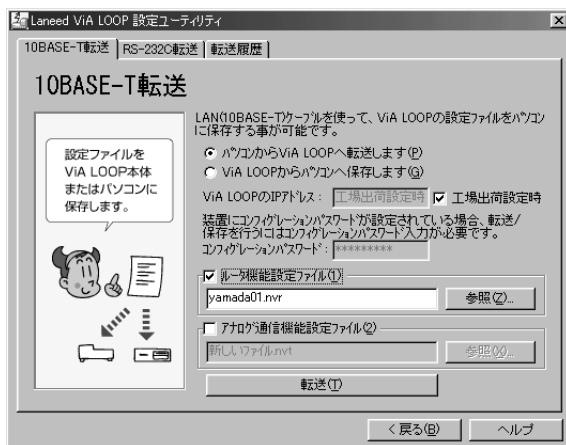
- ・ 〈ViA LOOP設定ユーティリティ〉画面に戻ります。

- 2 「設定ファイルをViA LOOPに転送する」のラジオボタンをオン(有効)にし、 **次へ(N) >** をクリックします。



- ・ 〈設定ファイルの転送〉画面が表示されます。

3 必要な内容を設定します。



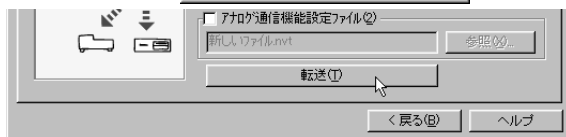
- ・「パソコンからViA LOOPへ転送します」のラジオボタンをオンにします。
- ・本製品にはじめて設定ファイルを転送する場合は、「工場出荷設定時」のチェックボックスをオンにします。
- ・2回目からは、ViA LOOPのIPアドレスと本製品の本体内に保存されている設定ファイルに対して設定したコンフィグレーションパスワードを入力します。
- ・[ルータ機能設定ファイル]のチェックボックスをオンにし、保存した設定ファイル名を入力します。



注意

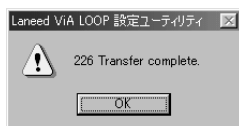
ここで入力するコンフィグレーションパスワードは、現在、本製品の本体内に保存されている設定ファイル(前回転送した設定ファイル)に対して設定したパスワードを入力します。これから、転送する設定ファイルのコンフィグレーションパスワードではありませんので、注意してください。(●P48)

4 設定が終われば、**転送(T)**をクリックします。



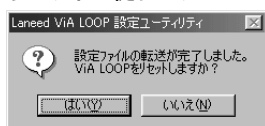
- ・設定内容の転送が始まります。

5 転送が正常に終了すると、メッセージが表示されます。



- ・**OK**をクリックします。

6 リセットを促すメッセージが表示されます。



- ・**はい(Y)**をクリックします。

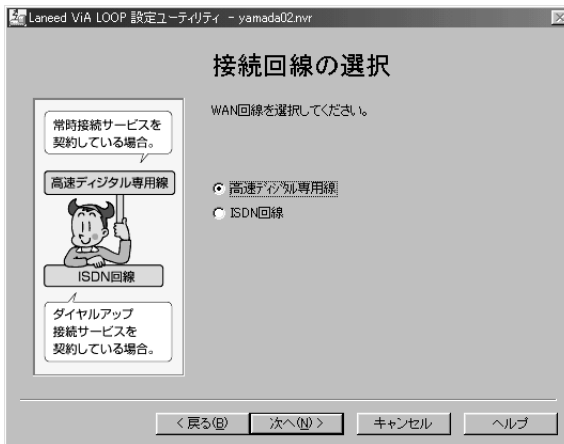
これで設定ファイルの転送を終了します。このあとは、インターネットに接続します。
36ページ「8. インターネットに接続しましょう」へ進んでください。

常時接続回線、専用線の基本設定をする

常時接続回線および高速デジタル専用線の基本設定を説明します。

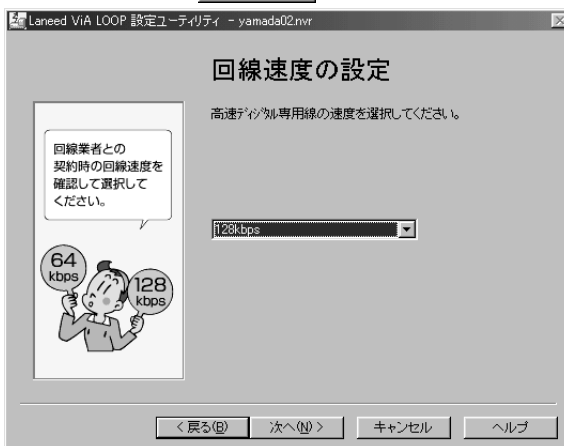
26ページ「ダイヤルアップ接続の基本設定をする」の手順 **1** ~ **4** を読んで、〈接続回線の選択〉画面を表示してください。

1 「高速デジタル専用線」を選択し、**次へ(N) >** をクリックします。



・〈回線速度の設定〉画面が表示されます。

2 回線速度を設定し、**次へ(N) >** をクリックします。



・OCNエコノミーなどの常時接続型サービスでは、「128kbps」を選択します。高速デジタル専用線の場合は、契約した回線速度を設定してください。

・〈契約IPアドレスの設定〉画面が表示されます。

3 契約IPアドレスを入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・ プロバイダ(接続業者)から指定されたIPアドレスと、サブネットマスクを入力します。

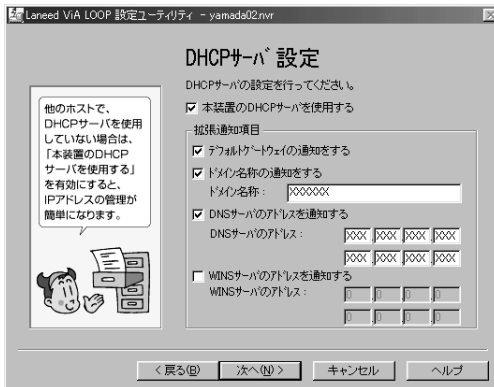
4 NAT+を使用するかを設定します。

- ・ NAT+を使用すると契約IPアドレスを有効利用できます。[NAT+を使用する]をオンにしたときは、LAN側の「IPアドレス」と「サブネットマスクパターン」を入力します。
- ・ <DHCPサーバ設定>画面が表示されます。



NAT+とは

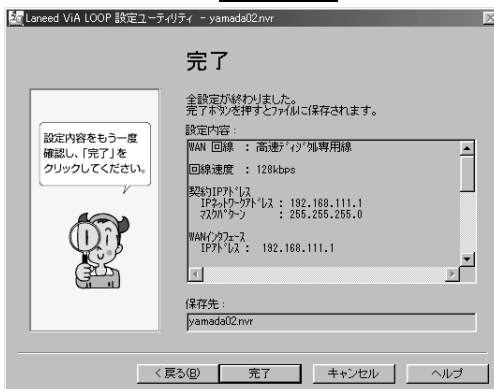
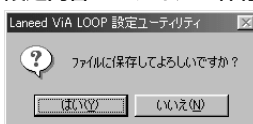
接続業者から提供されたグローバルなIPアドレスをネットワーク上のコンピュータに1台ずつ割り振るのではなく、それとは別にLAN環境でローカルアドレスを設定し、外部へ送るときは契約IPアドレスに変換して送る機能です。こうすることで、数少ないIPアドレスを有効に利用して複数台のコンピュータが同時にアクセスできるようになります。

5 必要事項を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・〈完了〉画面が表示されます。

◆各項目の内容

本装置のDHCPサーバを使用する	本製品のDHCPサーバを使用します。通常はオンのまま変更しないでください。
デフォルトゲートウェイの通知をする	この項目をオンにすると、各PC側でデフォルトゲートウェイを設定する必要がなくなります。
ドメイン名称の通知をする	プロバイダから指定がある場合は必ず入力します。なかった場合もドメイン名を入力することをおすすめします。
DNSサーバのアドレスを通知する	プロバイダから指定されたドメインネームサーバのアドレスを入力します。
WINSサーバのアドレスを通知する	WINSサーバのアドレスを入力します。わからなければ入力する必要はありません。

6 設定内容を確認して、**完了** をクリックします。**7** 設定内容をファイルに保存するか確認のメッセージが表示されます。**はい(Y)** をクリックします。

- ・〈メイン設定メニュー〉画面が表示されます。

このあと、保存した設定ファイルを本製品の本体に転送する作業が必要です。31ページ「設定ファイルを転送する」をお読みください。

必要な設定が終われば、いよいよインターネットに接続してみます。ここでは、ダイヤルアップおよび常時接続サービスでの接続方法を例として説明しています。

まだなら、まずブラウザをインストールする

インターネットを楽しむには、ブラウザと呼ばれるソフトウェアが必要です。一般的には、"Netscape Navigator"や"Internet Explorer"が使われます。これらのソフトウェアをご用意ください。なお、本製品に添付されているCD-ROMには、"Internet Explorer"がバンドルされていますので、必要に応じてご利用ください。

Internet Explorer4.0をインストールする

本製品に添付のCD-ROMにバンドルされている"Internet Explorer"をインストールする方法を説明します。

コンピュータの電源をオンにし、Windowsのシステムを起動しておきます。

- ・アプリケーションソフトなど不要なプログラムは安全のために終了しておいてください。

1 本製品に付属の「設定ユーティリティ」のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。

2 [マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]を開きます。

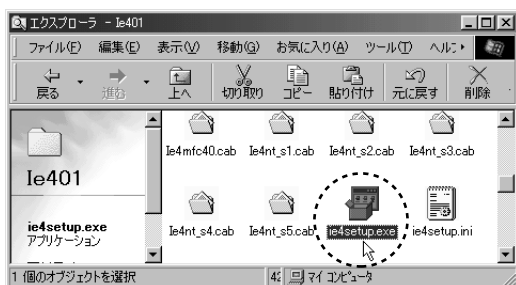
- ・CD-ROMの内容が表示されます。

3 "IE401"フォルダを開きます。



- ・Utilityフォルダの内容が表示されます。

4 "ie4setup.exe" をダブルクリックします。



- ・〈セットアップの開始〉画面が表示されます。

5 **次へ(N) >** をクリックします。

- ・〈使用許諾契約〉画面が表示されます。

6 「同意する」のラジオボタンをオンにし、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・〈インストールオプション〉画面が表示されます。

7 通常は「標準インストール」を選択し、**次へ(N) >** をクリックします。

- ・変更したい場合は、説明を読んでインストール内容を変更してください。
- ・〈インストール先フォルダ〉画面が表示されます。

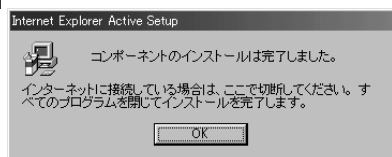
8. インターネットに接続しましょう

- 8** インストール先のフォルダを指定します。特に指定したいフォルダがなければ、**次へ(N) >** をクリックします。



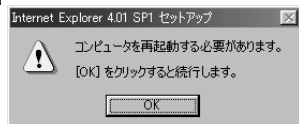
- ・ 指定したいフォルダがあれば、[インストールフォルダ]に入力するか **参照(R)...** をクリックしてフォルダを選んでください。
- ・ インストールが始まります。

- 9** インストールが終わったら、完了のメッセージが表示されます。 **OK** をクリックします。



- ・ システムの設定をおこないます。

- 10** しばらくすると、再起動を促すメッセージが表示されます。 **OK** をクリックします。



- ・ システムが再起動します。

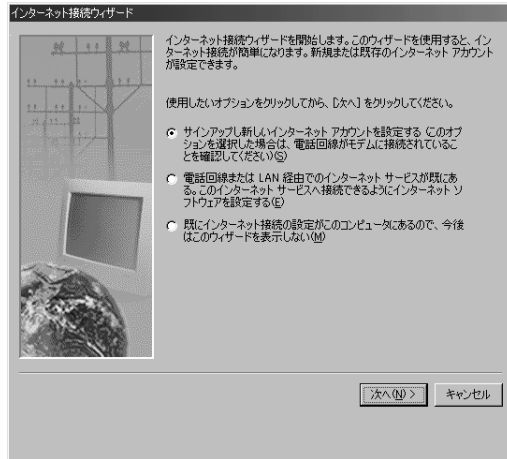
- 11** [スタート]→[プログラム]→[Internet Explorer]にある"Internet Explorer"を選択します。

- ・ <インターネット接続ウィザード> が起動します。

インターネット接続ウィザードで必要事項を入力する

契約プロバイダの情報などを入力することで、ブラウザを起動すると自動的に契約プロバイダとつながり、メールやニュースが読めるようになります。ここでは、ウィザードの途中で出てくるお主な項目に対して入力しなければならぬ事項を説明します。実際に入力する内容については、契約プロバイダから送付された書類をご覧ください。

◆インターネット接続ウィザード開始画面



契約プロバイダから送付された書類に次の内容が記載されているか確認してください。

◆必要事項一覧

項 目	(例)
お客様のメールアドレス	t-yamada@laneednet.or.jp
お客様のパスワード	xyz135pr
メールサーバ(POP,SMTP)	mail.laneednet.or.jp
ニュースサーバ(NNTP)	news.laneednet.or.jp

※このほか、インターネットディレクトリサービスを利用する場合は、サーバ名などが必要です。

■設定の流れ

①開始画面

はじめに、「電話回線またはLAN経由でのインターネットサービスがすでにある...」を選択します。

②オプション選択画面

「インターネットサービスプロバイダやLANを使用してインターネットにアクセス...」を選択します。

③〈インターネット接続の設定〉画面

「LANを使って接続する」を選択します。

④プロキシ サーバー画面

ネットワークが直接インターネットと接続されている場合は、「いいえ」を選択します。セキュリティのためにプロキシサーバを設置している場合は、「はい」を選択し、必要事項を設定してください。

●このあとは、メールサーバ、ニュースサーバの設定などをおこないます。これらは、インターネットの基本的な機能ですから、特に不要でない限り利用するように設定してください。設定には上記の「必要事項の一覧」にある情報が必要になります。

まだなら、まずブラウザをインストールする

インターネットに接続する

ブラウザの設定も終われば、いよいよインターネットに接続しましょう。

1 ブラウザを起動します。

2 アドレスの入力欄に、アクセスしたいWebページのアドレスを入力します。



3 正常に接続できると、アクセスしたWebページの内容が表示されます。

4 正常に表示されれば、インターネットへの接続は完了しました。



pingコマンドでチェックする

Windows98/95には、pingコマンドが用意されています。正常にアクセスできなかったときや、ブラウザがまだ用意できない場合は、プロバイダに対してpingコマンドを実行することで、正常に接続できているかを確認できます。

①[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSツールのグループ]を選択し、MS-DOSのウィンドウを表示します。

②pingコマンドのあとに、契約したプロバイダのドメインネームサーバ(DNS)のIPアドレスを入力し、**Enter**を押します。

(例)プロバイダから案内されたIPアドレスが202.XXX.XXX.Xのとき

```
C:\WINDOWS>ping 202.XXX.XXX.X Enter
```

③次のように返信があれば、正常に接続できています。(画面の数値は例です)

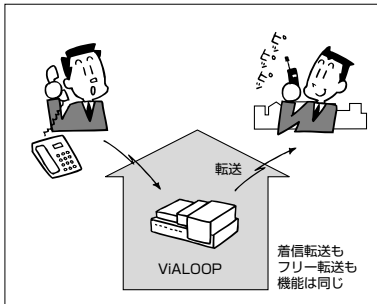
```
Reply from 202.XXX.XXX.X with 32 byte data:  
  
Reply from 202.XXX.XXX.X : bytes=32 time<10ms TTL=32  
Reply from 202.XXX.XXX.X : bytes=32 time<1ms TTL=32  
Reply from 202.XXX.XXX.X : bytes=32 time<10ms TTL=32  
Reply from 202.XXX.XXX.X : bytes=32 time<10ms TTL=32
```

アナログ通信機能を利用する

本製品のTEL1,TEL2に接続したアナログ通信機器に対していろいろな機能を設定することができます。

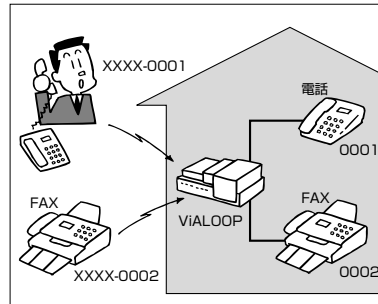
例えばこんなことができます。

●着信転送



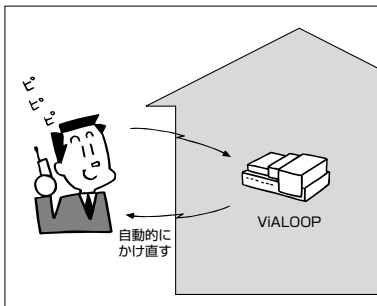
外部から受けた電話を指定した電話番号へ自動的に転送します。

●グローバル着信/ダイヤルイン/サブアドレス



TEL1ポートとTEL2ポートで、独立した電話番号またはサブアドレスを設定することで、それぞれのポートにだけ着信することができます。

●コールバック



コールバック機能は、電話をかけてきた相手に自動的に電話をかけ直す機能です。例えば、携帯電話やPHSから会社に電話をかけたとき、コールバック機能を使うと通話料金を会社側に負担してもらうことができます。

このほかにも多彩な機能があります。

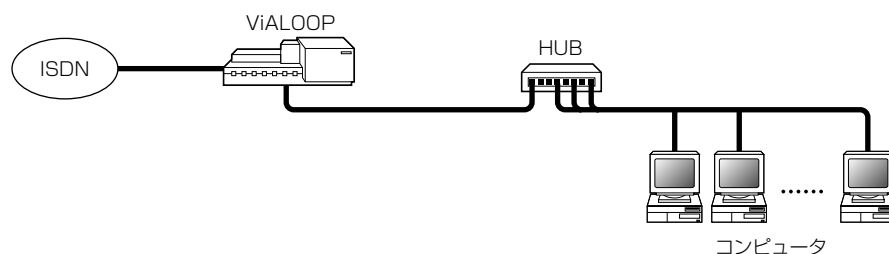
これらの設定は、工場出荷時に一般的な機能を利用できるように設定されています。さらにいろいろな機能を使用したい場合や、各機能の設定を変更したい場合は、本製品に登録されている設定内容を変更する必要があります。設定方法については、「ユーザズマニュアル」をお読みください。

- ・アナログ通信機能の内容を知る ●8ページ
- ・設定ユーティリティを使ってコンピュータ上から変更する。 ●18ページ
- ・電話機のダイヤルボタンを使って変更する。 ●48ページ

ルータ機能を利用する

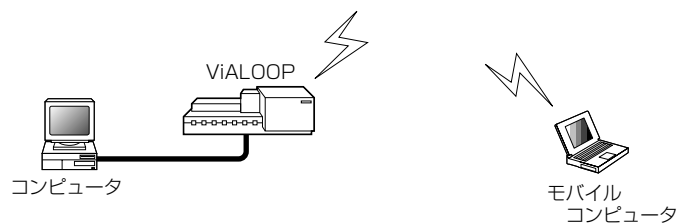
「スタートガイド」では、本製品を使ってISDN回線や常時接続回線(または高速デジタル専用線)とコンピュータ1台での接続方法と設定方法を説明しました。実際には、HUBを追加して複数台のコンピュータを接続してください。また、「スタートガイド」の時点では、ルータ機能は、基本的な機能だけがデフォルト値で設定された状態です。本製品には、ルータ機能を使いこなすための多くの拡張機能が用意されています。必要に応じて、ユーザーズマニュアルのChapter4「(ルータ機能編)設定ユーティリティを使って設定する」をお読みください。

■HUBを使って複数台のコンピュータを接続する

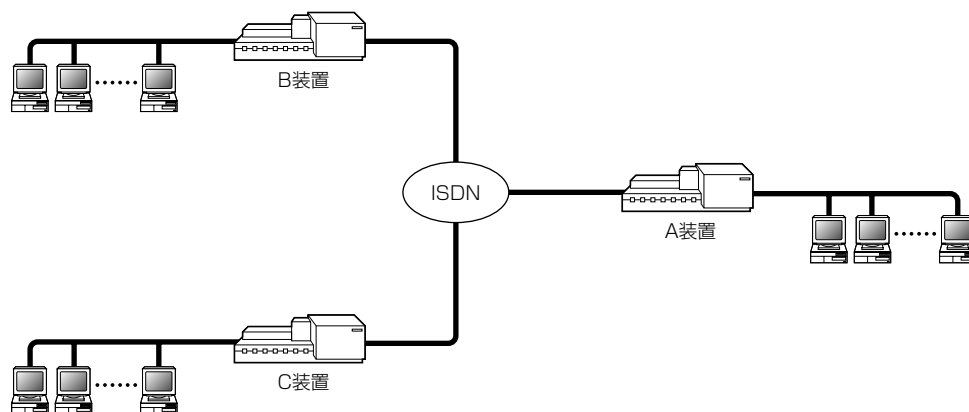


※接続時に、本製品およびHUBのHUB-TERMスイッチの状態が正しいか確認してください。

■モバイルでリモートする (ISDNダイヤルアップ)



■ルータを複数用意して拠点間を結ぶ (ISDNダイヤルアップ)



こんなときは

うまく動作しないときは、サポートセンターにお電話する前に、次のことを調べてください。

接続に関する問題

すべてのケーブルのコネクタがしっかりと奥まで差し込まれているか、はじめに確認してください。確認は本製品のACプラグを抜き、関連するすべての機器の電源をオフにしてから確認してください。

■本製品とISDN回線(または常時接続回線および高速デジタル専用線)が正しく接続されていますか。

- RJ11ケーブルで正しく接続していますか。本製品側は、"LINE U"ポートに接続されていますか。
 - ➡ 本製品のACプラグを抜いてから、確認してください。
- ISDN回線の極性が逆であることも考えられます。
 - ➡ 本製品のACプラグを抜き、"NOR/REV"スイッチをREV側に切り替えて、本製品の電源を入れてから、確認します。

■アナログ通信機器がつかない場合は、本製品とアナログ通信機器が正しく接続されていますか。

- 本製品側は"TEL1/TEL2"ポートに、アナログ通信機器側は"LINE"ポートに接続します。特にアナログ通信機器側は"LINE"ポートではなく"TEL"ポートに接続しているミスがよくあります。LINEポートとは、通常はNTTの一般回線とアナログ通信機器を接続するポートです。TELポートとは、アナログ通信機器に別のアナログ通信機器を増設するためのポートです。
 - ➡ 本製品のACプラグを抜き、関連するすべての機器の電源をオフにしてから確認してください。

■ネットワークケーブルは正しく接続されていますか。

- イーサネットケーブルは10BASE-T対応のRJ45ケーブルを使用していますか。イーサネットケーブルは4極4芯で構成されています。
 - ➡ 10BASE-Tイーサネットケーブルを使用しているか確認してください。
- イーサネットボードの"LINK"ランプは正常に点灯していますか。
 - ➡ イーサネットボードの表示ランプのLINKランプが正常に点灯しているか確認してください。詳しくはイーサネットボードのマニュアルをお読みください。
- 本製品のLEDランプ表示は正常ですか。
 - ➡ ユーザーズマニュアル113ページ「LED点灯状態の見かた」を確認してください。
- 本製品およびHUBのHUB-TREMスイッチが正しく設定されていますか。
 - ➡ 本製品をHUBと使用している場合、それぞれのHUB-TERMスイッチが正しく設定されているか調べてください。間違っていた場合は、関連する機器の電源をすべてオフにして設定を変更してください。

■通信速度が128kbpsなのに、ISDNランプがひとつしか点灯しない。

- ➡ 常時接続回線または高速デジタル専用線を使用していませんか。常時接続回線および高速デジタル専用線の場合、通信速度に関係なくISDNランプはひとつしか点灯しません。

■アナログポートが使用できない。

- ケーブルの種類や接続しているポートは正しいですか。
 - ➡ 機器の電源を切って、接続状態を確認してください。117や177にダイヤルして通話可能か確認してください。ViA LOOPは初期設定で基本的なアナログ通信機能に対応しています。
- LINE Uポートにアナログ通信機器を接続していませんか。
 - ➡ 機器の電源を切って、接続状態を確認してください。

設定に関する問題(アナログ通信機能/ルータ機能共通)

■設定ファイルを転送できない。

● LANランプは点灯していますか。

- ➡ イーサネットケーブルが正常に接続されているか確認してください。ケーブルは付属のイーサネットケーブルまたは弊社製イーサネットケーブルを使用してください。
- ➡ イーサネットケーブルの属性が正しいか確認してください。

● 本製品のIPアドレスは正しいですか。

- ➡ IPアドレスが正しいかを確認してください。
IPアドレスが分からない場合、次のような方法で確認できます。

◆ Windows95の場合

windowsディレクトリにある"winipcfg.exe"を実行します。

(例)C:¥windows¥winipcfg

起動PC側のIPアドレスと本製品のデフォルトゲートウェイが表示されます。

◆ Windows98/NT4.0の場合

windowsディレクトリにある"ipconfig.exe"を実行します。

(例)C:¥windows¥ipconfig

起動PC側のIPアドレスと本製品のデフォルトゲートウェイが表示されます。

● 正しいコンフィグレーションパスワードを入力していますか。

- ➡ コンフィグレーションパスワードは、前回、本製品の本体内に転送したときに設定したパスワードを入力します。はじめて設定ファイルを本製品の本体内に転送する場合は、[工場出荷設定時]をチェックします。

● 本製品のDHCPサーバ機能が有効になっていますか。

- ➡ ルータ機能の基本設定を確認してください。

● 本製品以外にDHCPサーバ機能を起動していませんか。

- ➡ 同じLAN上で複数のDHCPサーバを起動することはできません。

● pingコマンドを実行して確認しましたか。

- ➡ まだなら、40ページ「インターネットに接続する」の[Tips]を読んでpingコマンドを実行してみてください。

設定に関する問題(ルータ機能関係)

- ルータが認識されない。10BASE-Tを使って、設定ファイルを転送しようとしても転送できない。
- コンピュータ側のネットワーク設定は正しいですか。
 - ➡ TCP/IPプロトコルは登録されているか、DHCPサーバの設定は正しいかを確認してください。➡P16
- ルータ機能の設定は正しくおこなわれていますか。
 - ➡ 設定ユーティリティの[設定ファイル]を使ってルータ機能の設定が正しいか確認してください。

設定に関する問題(アナログ通信機能関係)

■アナログ通信機能が使えない。

- 本製品の電源を常にオンの状態にしていますか。
 - ➡ 本製品の電源をオフにすると、アナログ通信機能は使えません。
- 常時接続サービス、高速デジタル専用線で、アナログ通信機器を使っていませんか。
 - ➡ 常時接続サービス、高速デジタル専用線では、アナログ通信機能は使えません。

■どんなアナログ通信機能があるのかわからない。

- 本製品には多彩なアナログ通信機能があります。
 - ➡ 「ユーザズマニュアル」の8ページ「アナログ通信機能について知ろう」をお読みください。利用可能なアナログ通信機能について説明しています。

■ダイヤルイン契約をしたが、TEL1/TEL2ポートの2台の電話が同時になります。

■その他、NTTと契約したオプション機能が利用できない。

- デフォルトではこれらの機能に対応するように設定されていないものがあります。アナログ通信機能の設定をおこなってください。
 - ➡ アナログ通信機能は、設定ユーティリティで設定できます。詳しくは「ユーザズマニュアル」をお読みください。

インターネット、ブラウザに関する問題

■プロバイダに接続しない。

- プロバイダに関する設定は正しいですか。
 - ➡ 接続先のISDNアクセスポイントの電話番号(同じ市内からかけるときも、市外局番が必要)、プロバイダのIPアドレス、ユーザーID(アドレス)、パスワードなどの設定が正しいか、設定ファイルの情報を見て確認してください。

■インターネットにはつながったが、電子メールやニュースが読めない、送れない。

- メールサーバーなどの設定はしましたか。
 - ➡ もう一度、ブラウザ側の設定を確認してください。

■プロバイダに接続できない。

- ISDNランプは点灯していますか。
 - ➡ 本製品の電源を切ったあとで、LINE Uポートに接続されているか確認してください。
- 設定ユーティリティで接続先の設定を正しくしていますか。
 - ➡ 基本設定の内容を確認してみてください。

■ブラウザで表示されない。

- ブラウザの設定は正しいですか。
 - ➡ 以前、モデムやTAを使っていた場合は、ブラウザの設定をLAN型接続に変更する必要があります。
- 適切なURLを指定していますか。
 - ➡ 下記のアドレスを入力して試してください。
[エレコム・ラニードホームページ] <http://www.elecom-laneed.com/>

■メールの送受信ができない。

- メールソフトの設定は正しいですか。
 - ➡ メールアドレス、メールパスワード、POPサーバなどの設定が正しいか確認してください。

補足1 原因がわからないとき

「うまく動作しないときは」を読んだり、マニュアルの設定方法をチェックしても問題が解決しない場合、次のようなことを、もう一度確認してみてください。

A. LAN側の問題か、WAN側の問題かを確認する

■LAN側の確認方法

本製品(ViA LOOP)に対して、pingコマンドを実行します。Windows98/95/NT4.0では、pingコマンドで、通信状態を確認することができます。

- ① [スタート]→[プログラム]→[MD-DOSプログラム]を選択し、MS-DOSのウィンドウを表示します。
- ② pingコマンドに続いて[ターゲットのIPアドレス]を入力し、[Enter]を押します。

(例) 本製品に対してpingを実行する場合

```
C:\windows>ping 192.168.1.1 [Enter]
```

- ③ 下記のように表示されれば、コンピュータから本製品への通信は問題ありません。

```
Pinging 192.168.1.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.1: byte=32 times=8ms TTL=63
Reply from 192.168.1.1: byte=32 times=6ms TTL=63
Reply from 192.168.1.1: byte=32 times=4ms TTL=63
Reply from 192.168.1.1: byte=32 times=5ms TTL=63
```

■WAN側の確認方法

DNSサーバに対して、pingコマンドを実行します。

- ① [スタート]→[プログラム]→[MD-DOSプログラム]を選択し、MS-DOSのウィンドウを表示します。
- ② pingコマンドに続いて[DNSのIPアドレス]を入力し、[Enter]を押します。

(例) DNSサーバに対してpingを実行する場合

```
C:\windows>ping 143.XX.XXX.XX [Enter]
```

- ③ 下記のように表示されれば、コンピュータから本製品への通信は問題ありません。

```
Pinging 143.XX.XXX.XX with 32 bytes of data:

Reply from 143.XX.XXX.XX byte=32 time=8ms TTL=63
Reply from 143.XX.XXX.XX byte=32 time=8ms TTL=63
Reply from 143.XX.XXX.XX byte=32 time=8ms TTL=63
Reply from 143.XX.XXX.XX byte=32 time=8ms TTL=63
```

B. 設定を工場出荷時の状態に戻す

本製品の設定を工場出荷設定時に戻して、最初から設定をやり直してください。工場出荷時設定への戻しかたは49ページ「工場出荷時の状態に設定を戻す」をお読みください。設定を戻したあとは、このマニュアルの26ページ「ダイヤルアップ接続の基本設定をする」または33ページ「常時接続、専用線の基本設定をする」を読んで設定をやり直してください。



注意

「工場出荷設定時」に戻すと、本製品の本体内に保存されている設定内容は失われます。

補足2 コンフィグレーションパスワードについて

コンフィグレーションパスワードは、設定ファイルごとに与えられるパスワードです。新規作成のたびに異なったパスワードを設定している場合は、各設定ファイルごとにパスワードが異なってきますので、ご注意ください。既存の設定ファイルを読み出すときは、必ずその設定ファイルに対して設定したパスワードを入力してください。また、設定ファイルを転送する場合にも、コンフィグレーションパスワードが必要になりますが、このときは、本製品(ViA LOOP)本体にある設定ファイルのコンフィグレーションパスワードを入力します。転送する設定ファイルのコンフィグレーションパスワードではありませんので、ご注意ください。

●設定ファイルを新規作成するとき

その設定ファイルに対するコンフィグレーションパスワードを入力します。忘れないようにしてください。

●既存のファイルを読み出すとき

例えば下記のような既存の設定ファイルがあった場合



●はじめてファイルを転送するとき

転送画面で[工場出荷設定時]のチェックボックスをオンにして、転送を実行します。

●2回目以降、ファイルを転送するとき

前回の転送で、1111.nvr(1AAA)を転送して、本製品の本体には、1111.nvrの設定ファイルが存在しており、今回は2222.nvrの設定ファイルを転送するとき。

- ➡ 転送画面の[コンフィグレーションパスワード]には、1111.nvrのパスワードである"1AAA"を入力します。2222.nvrのパスワードを入力しないように注意してください。さらに、次回別の設定ファイルを転送するときは、2222.nvrのパスワードを入力します。つまり、転送画面における[コンフィグレーションパスワード]とは、本製品本体内に存在する設定ファイルのパスワードになります。

補足3 工場出荷時の状態に設定を戻す

本製品の設定状態を工場出荷時の設定に戻したいときは次の手順でおこなってください。

- ① 本製品の電源ケーブルをACコンセントから抜きます。
- ② 本製品の裏面にある設定スイッチの"4"をONにする。(シャープペンシルの先や伸ばしたクリップなどでスイッチを変更してください)
- ③ 本製品の電源ケーブルをACコンセントに差し込みます。
- ④ 本製品のランプが全て点灯し続けるまで待ちます。(40～50秒かかります)
- ⑤ 本製品の電源ケーブルをACコンセントからもう一度抜きます。
- ⑥ 初期化スイッチをOFFに戻します。
- ⑦ 本製品の電源ケーブルをACコンセントに差し込みます。

製品の保証とサービス

本製品には、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じた、いかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

保証期間中に故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えて、下記修理センターにご依頼ください。

エレコム修理センター

〒343-0822 埼玉県越谷市西方2722-1 小山企業センター内

エレコム株式会社 エレコム修理センター

電話番号 0489-61-1687

電話受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00

(ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日を除く)

ユーザ登録について

パッケージの内容が確認できたら、作業をはじめる前に、ユーザ登録カードに必要なことをご記入の上、ご投函ください。

郵便はがき
料金受取人
〒170-8765
東京都豊島区東池袋3-13-2
住友不動産東池袋ビル
Laneed サポートセンター行
〒6077
近畿西信託
平成13年5月
まで
(宛手不変)

ユーザ登録カード
●S/N 番番
●商社名
●ご住所
●TEL
●郵便名
●郵便番号 (〒)

※裏面のアンケートにご協力をお願いします。

番号を控えておきます。

品番	S/N
----	-----

会社名、住所などを記入します。

※裏面のアンケートにもお答えください。
ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

本製品に関して、ご質問がある場合は、ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。また、FAX情報によるサービス、ネット上によるオンラインサービスも提供しています。なお、サポートセンターでサービスを受けるために、あらかじめ本製品に添付されているユーザ登録はがきをご投函くださいますようお願いいたします。修理品の送り先については、50ページをご覧ください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00

(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)

※FAXによる受信は24時間行っております。

●インターネット

<http://www.elecom-laneed.com/>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。

ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

559900

電話番号

東京：03-3940-6000	大阪：06-455-6000
名古屋：052-453-6000	福岡：092-482-6000
札幌：011-210-6000	仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000	

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次のことを確認してください。

- ・使用回線(ISDN・専用線)
 - ・おもなネットワーク構成
 - ・具体的な現象
- 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

ISDNルータ
ViALOOP6010
スタートガイド
発行 エレコム株式会社
1998年7月28日 第1版

スタート
ガイドです。



Laneed
ELECOM